

Examination 1

頭頸部・下肢の診察

1. 学習目標

- 1 身体的・心理的变化からくる顔貌の変化の有無や、頭部（頭皮・頭蓋）における腫瘍や皮疹などの有無を観察できる
- 2 瞳孔、眼球、眼瞼の局所的病態および貧血や黄疸（黄染）、浮腫など、全身疾患の重要な徴候をとらえることができる
- 3 頸部リンパ節の触診を行い、炎症や悪性疾患によるリンパ節の腫脹がないかを確認することができる
- 4 甲状腺の視触診を行い、甲状腺の腫大、部分的腫瘍を見出しその特徴について理解できる
- 5 頸動脈の血管雑音の有無を聴取できる
- 6 下肢の診察（浮腫、血管の拍動触知）ができる

2. 必要物品の準備

<input type="checkbox"/> 擦式手指用アルコール	<input type="checkbox"/> 聴診器	<input type="checkbox"/> トレイ
<input type="checkbox"/> 瞳孔計	<input type="checkbox"/> アルコール綿（聴診器の清拭用）	<input type="checkbox"/> （甲状腺触診モデル）
<input type="checkbox"/> ペンライト	<input type="checkbox"/> 音叉（512 Hz）	<input type="checkbox"/> （ドプラー 必要に応じて）
<input type="checkbox"/> 舌圧子	<input type="checkbox"/> ゴミ袋	

3. 演習の進め方

1 ▶▶ 演習方法

- ① 顔面（瞳孔、眼瞼、眼球結膜、口腔内、口唇）の診察
- ② 頸部リンパ節の触知
- ③ 甲状腺の視触診
- ④ 頸動脈雑音の聴取
- ⑤ 腋窩リンパ節の触知
- ⑥ 下肢の診察（浮腫、足の血管拍動）

2 ▶▶ 演習のポイント（予習のポイント）

- ① 瞳孔、眼瞼、眼瞼結膜、眼球結膜の観察の仕方、その意義について理解している
- ② 口腔内の解剖学的な位置と名称について基礎知識がある
- ③ 頸部リンパ節の分布について概要を理解している
- ④ 頸動脈の走行について解剖学的な位置の確認ができる
- ⑤ 甲状腺の位置や形状について理解している
- ⑥ 足背動脈および後脛骨動脈の触知ができる
- ⑦ 演習を行う際は、「自分がこれから行う診察の内容と診察所見を声に出しながら実施」する
- ⑧ 対象者を傷つけないように爪を切っておくこと

4. 評価：演習後に自己評価をする

5. 備考 ※頭頸部の診察においては、女子学生は演習前までに化粧を落としておく

6. 演習の進行

顔面の診察

状況設定例：喉の違和感と足のむくみを訴えて受診してきた若い女性（男性）患者の診察

演習内容および患者への声かけと所見

英語での声かけと所見

演習前

身だしなみ、爪切りチェック、手洗い

状況設定

座位で対面して頭頸部の診察をする

デモンストレーション1（顔面）

自己紹介と患者のフルネームを確認する

1 全体および顔頭頸部の視診、顔貌、表情を視診する

全体の概観を視診する

所見：観察した内容を説明する

正常例「体格は中等で、栄養は良。顔色・表情などを
含め顔貌に異常を認めません」

01

An example of normal findings, "The patient is of average build, appears to have a good state of nutrition and has a normal facial color and expression."

2 目の診察

1) 眼全体の観察

説明：「これから顔を触ります。軽く上をみてください
ください」

手順：擦式アルコールで手指衛生を行い、両親指で
下眼瞼を押し下げて眼瞼結膜を露出させる

観察項目：

- ① 眼瞼周囲を観察し、浮腫の有無を確認する
- ② 眼瞼結膜の貧血・充血の有無
- ③ 眼球結膜の黄染（黄疸）の有無、白内障の有無
など

所見：観察した内容を説明する

正常例「眼瞼に浮腫はなく、貧血や充血もみられま
せん。眼球結膜の黄染や白内障もなく異常は認
められません」

02

"I'll now like to examine your eyes, could you look up for me?"

03

"There is no visible edema in the eyelids, nor any evidence of anemia or congestion. Furthermore, I can see no evidence of scleral icterus or cataract. Overall, I noted no clinical abnormality in the eyes."

2) 瞳孔の診察

説明：「遠くをみていてください」

手順：瞳孔計を両目の下側から近づけ、瞳孔のサイ
ズを確認する

観察項目：

- ① 瞳孔の形の観察、瞳孔径を測定し、左右差（ア
ニソコリア）の有無を観察

04

"Please pick a point in the far distance and continue looking at that please."

診察のポイント

- 所見を正確に把握するために、女性は可能な限り化粧をしないほうが望ましい
- 患者に挨拶をする

- 患者に触れる前に擦式アルコールで手指衛生
- 全体の概観を視診



図1 瞳孔径の測定と対光反射

- 遠くボーっとみるように指示する。近いところを見ると縮瞳する
- 片側ずつ①直接対光反射 ②間接対光反射の順にみる。ライトが患者の視野に急に入ったり凝視すると瞳孔が変化するので、患者の視野に入らないところ(斜め下)から光を入れる

演習内容および患者への声かけと所見

② 直接対光反射（光を当てた側の瞳孔）

③ 間接対光反射（反対側の瞳孔）

所見：観察した内容を説明する

正常例「瞳孔は正円形で○mm、左右差もありません」

3 耳の診察

1) 聴力

① 話し声による聴力の確認

説明：「私の声はふつうに聞こえますか？ 聞きとりにくいですか？」

② 指こすり試験

手順：両耳の横 30 cm の距離で指をこすり合わせて聞こえるか、左右同じかを確認する

説明：「これ（指こすり音 右）とこれ（指こすり音 左）は左右同じように聞こえますか？」

2) Rinne 試験

説明：「音叉を耳の後ろに当てますので音が聞こえなくなったら教えてください」

手順：振動させた音叉の根本を患者の乳様突起に垂直に当て、音が聞こえなくなったら知らせてもらう（骨導）。音が聞こえなくなると患者が言ったら、音叉の二股部分を外耳道付近に移動させ、音が聴こえるかを確認する（気導）

確認：「ブーンという音が聴こえますか？」

3) Weber 試験

説明：「これから音叉をおでこの中央に置きます。音叉の音が正中で響いているか、左右どちらかの耳に偏って響いているかを教えてください」

手技：

① 患者に目を閉じてもらう

② 振動させた音叉の柄を前額部正中に当てる

確認：「おでこに当てた音叉の音は真ん中で響きますか？ それとも右か左のどちらかに偏って響きますか？」

所見：観察した内容を説明する

英語での声かけと所見

▶▶▶ 05

"The pupils are round and ○mm bilaterally, with no differences between the two sides."

▶▶▶ 06

"Are you able to hear my voice normally? Is it difficult to hear?"

▶▶▶ 07

"Can you hear this (sound of fingers rubbing together on the right) and this (sound of fingers rubbing together on the left) equally well on both sides?"

▶▶▶ 08

"I'm going to place this tuning fork behind your ear; please let me know when you can no longer hear the buzzing sound."

▶▶▶ 09

"Can you hear the buzzing sound in your ear?"

▶▶▶ 10

"Now I'm going to place the tuning fork on the middle of your forehead. Please let me know if you hear the sound loudest on the left, on the right, or in the middle."

"Now I'm going to place the tuning fork on the middle of your forehead. Please let me know if you hear the sound loudest on the left, on the right, or in the middle."

診察のポイント

- 間接対光反射は確認しにくい。間接対光反射を確認する側の瞳孔にあらかじめペンライトで光を入れていったん縮瞳させて数秒おくと瞳孔径が安定する。そのままの状態でも直接対光反射を観察する側の瞳孔にペンライトで光をかざすと、直接対光反射に遅れて反対側の間接対光反射を確認することができる
- 会話（512Hz）が普通にできているか、両方向のように聞こえるか本人に聞いて確認する
- 指こすり音（2,000～4,000Hz）
- まず診察者が自分の耳で指こすりを確認してから片方ずつ指こすりをする

<Rinne test>

- 耳介後部にある乳様突起に音叉をあてる
- 振動がなくなったことが確認できたら、乳様突起から音叉を離し、外耳から約5 cm離れたところであて気導を確認する
- 外耳に音叉を持っていく際は、音叉のフォーク部のUが耳側に向くようにする
- 正常では骨導より気導のほうが鋭敏なため、乳様突起の骨伝導がなくなっても気導では音が聞こえる。この正常な状態をリンネ陽性（+）とする

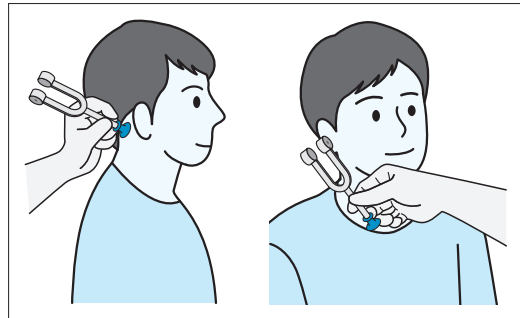


図2 骨導（左）、気導（右）

<Weber test>

- 患者に目を閉じてもらおうと集中できる
- 音叉は額に垂直におく
- 音叉のフォークの向きを偏らせることなく左右に均等にする
- 中耳伝音系の障害では、音は患側（聴こえ方が悪い側）に偏って強く響く
- 内耳感音系または蝸牛神経障害では、音は健側に強く響く
- 65歳以上の約1/3に老人性難聴が認められる

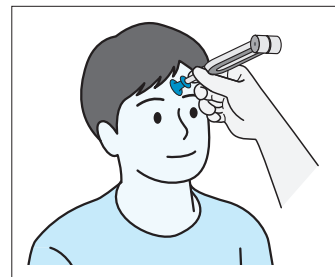


図3 Weber test